

## 質疑應答

問。ワツセルマン氏反應陽性ナル肺結核患者ノ驅黴療法效果如何、

(大阪 S, T)

答。ワ氏反應ガ陽性デアツテモ必ズンモ肺黴毒ト云フ事ハテキキヌ。眞ノ肺黴毒ハ文獻ニ見テモ餘リ多クハナイガ肺結核ト合併シテ來ルコトハ相當ニ多イ様デアアル。之ハ結核菌ト「スピロヘータ、パルリダ」ヲ同時ニ喀痰中ニ發見セバ喉頭ニ黴毒性潰瘍ノナイ限リ肺ノ重感染タルコト明デアアル。肺結核患者ニ強力ナル驅黴療法ヲ行フノ可否ニ就テハ相當議論ノアルトコロデ而モ實地家ニトツテハ等閑ニテキキナイ問題デアアル。筆者モ本問題ニ就キ少シノ經驗ガアルガ單ニワ氏反應強陽性ノ結核患者テハ沃度、砒素共ニ何レニモ大シタ影響ヲ與ヘナイ様ニ思ハレル。水銀注射ハ下痢ヲ起スタメ少數ノ例テハ持長スルコトガ困難デアツタ。左ニ御參考マテニワイス氏ノ提唱ヲ御紹介スル (Wass, R. P., Helldige's Klinik d. Tuberkulose Bd. XII. S. 115.)

一、臨牀上ノ經驗ニヨリ特ニ結核性素質ヲ有スルモノト見ルベキ患者、就中體質虛弱者、「アステーニツシュ」ナ體質者、又ハ遺傳性ノアル患者ニ對シテハ驅黴療法ヲ行フハ頗ル慎重ナルヲ要シ苟モ體力ヲ減弱セシムルガ如キ方法ハ之ヲ避ケズムバ容易ニ結核ヲ活動性トナスベシ。新染ナル黴毒ニハ水銀ヨリハ寧ロ「サルヴァルサン」ヲ常用シ水銀ハ必要缺クベカラザル時ニノミ用フルモノトス。

二、全身狀態佳良ナル活動性結核ヲ有スル患者ガ新ニ黴毒ニ重感染シタル時

ハ充分ニ而モ慎重ニ驅黴療法ヲ施行ス。但シ能フ限リ「サルヴァルサン」ヲ選定スベシ。強力體質者ニハ同時ニ「ツベルクリン」治療ヲナシ虛弱體質者ニハ驅黴療法ノ了ルヲ待チテ之ヲ施行スルモノトス。

三、陳舊黴毒患者ガ活動性結核ニ罹リタル場合ハ先ヅ沃度ヲ使用ス。之レ本劑ニヨリテ速ニ兩疾患ニ同時ニ奏效ヲ期スベキヲ以テナリ。

四、結核ノ末期、「カヘキシ」甚シキ場合、及ビ高熱アル場合ニハ驅黴療法ハ禁忌ナリ。

以上ノ提唱ニ依ルト雖モ衛生、榮養療法ハ更ニ重大ナルヲ忘ルベカラズ。

(東京市療養所 寺尾殿治)